

## 第82回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成21年4~6月期実績・平成21年7~9月期見通し)

1. 調査時点 平成21年6月1日~6月5日

2. 調査対象企業数 181社中回答 181社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	従業員 300人以下	41	41	100.0
建設業	"	46	46	100.0
卸売業	従業員 100人以下	8	8	100.0
小売業	従業員 50人以下	55	55	100.0
サービス業	"	31	31	100.0
合計		181	181	100.0

### 3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域(新冠町~広尾町)内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

### 4. 分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少(下降)」したと回答した企業の全体に占める構成比との差(判断指数・DI値)を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫総合研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

### 5. お問い合わせ先

日高信用金庫 経営統轄本部調査課( .0146 - 22 - 4116、内線213)

〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

## 全業種総合 181 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

### 概 況

今期(平成21年4~6月期)の業況判断DI値は 47.0 と、前期(平成21年1~3月期 59.7)比改善しマイナス値が12.7ポイント縮小、前年同期(平成20年4~6月期 52.8)との比較でも改善を示した。業種別にみると、前期比製造、建設、卸売が改善し建設が最も大きな改善幅となった一方、小売、サービスが小幅悪化。また、前年同期比では製造、建設が改善し、卸売、小売、サービスが悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 17.7(前期 61.3)、収益が 14.9(前期 23.2)と、前期比それぞれマイナス値が縮小し43.6、8.3ポイント上昇した。

来期(平成21年7~9月期)の予想業況判断DI値は 39.2 と、今期(47.0)実績比7.8ポイントの改善を見通し、前年同期(平成20年7~9月期 46.1)実績を上回る水準となっている。

### 【業種別天気図】

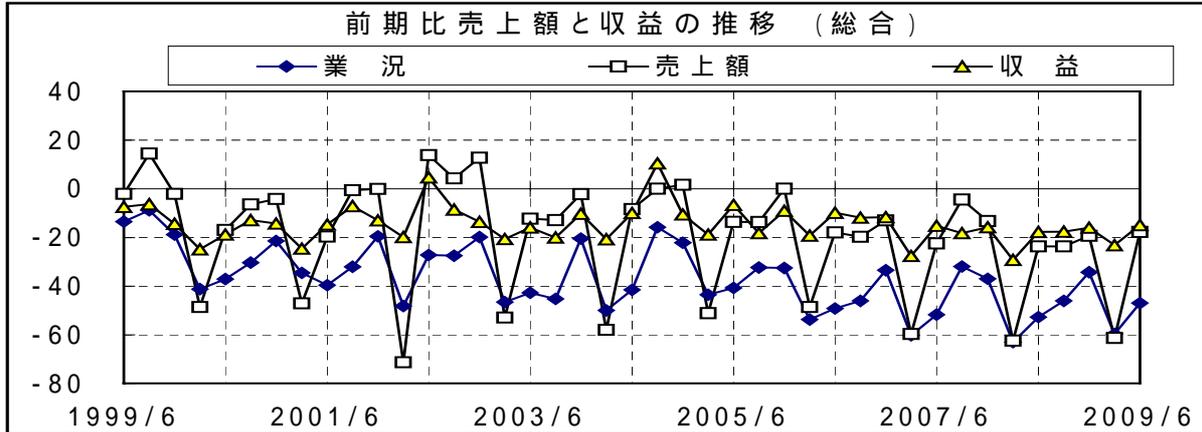
業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	20年 10~12月	21年 1~3月	21年 4~6月	21年 7~9月見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						
好調						低調
この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。						

## 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-34.3	-59.7	-47.0	-39.2
売上額	-19.3	-61.3	-17.7	-12.7
収 益	-16.0	-23.2	-14.9	-17.6

全業種総合の今期の業況判断DI値は 47.0 と、前期比改善しマイナス値が 12.7 ポイント縮小、前年同期(52.8)との比較でも改善を示した。地区別にみると、浦河、静内、様似、えりも、広尾地区が改善し、三石地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 17.7、収益が 14.9 と、前期比それぞれマイナス値が縮小し 43.6、8.3 ポイント上昇した。

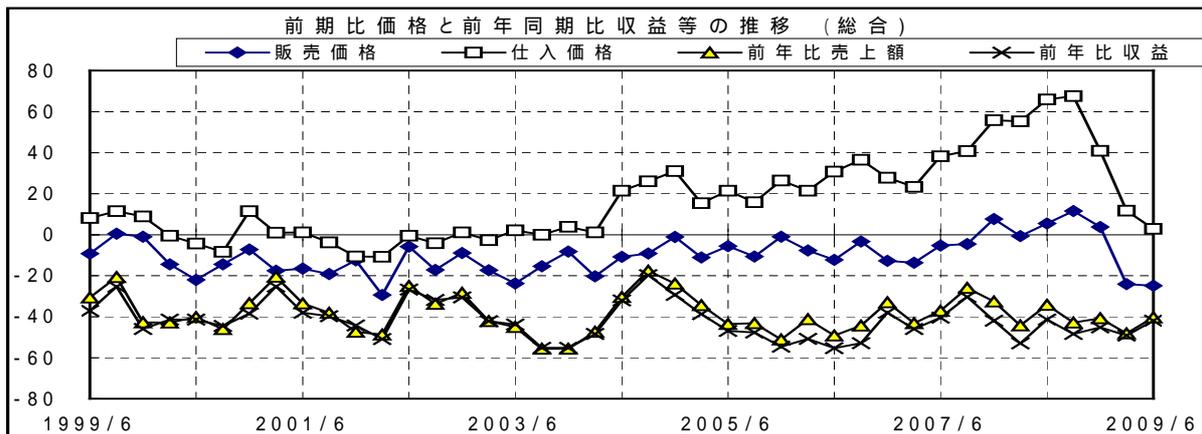


## 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	3.7	-24.1	-24.9	-17.6
仕入価格	40.9	11.7	2.8	1.7

販売価格判断DI値( 24.9)は、前期比マイナス値が拡大し0.8 ポイント低下、価格低下基調を強めている。一方、仕入価格判断DI値(2.8)は、前期比プラス値が縮小し8.9 ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、販売価格が製造、小売、サービスで低下し、建設、卸売で上昇、仕入価格が製造、建設、小売、サービス

で低下し、卸売で上昇している。



## 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-7.2	-21.0	-17.1	-9.9
人手状況	-1.1	11.7	13.2	3.4

残業時間判断DI値は 17.1 と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比3.9 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 13.2 と、前期比プラス値が拡大し1.5 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

## 設備投資の動き

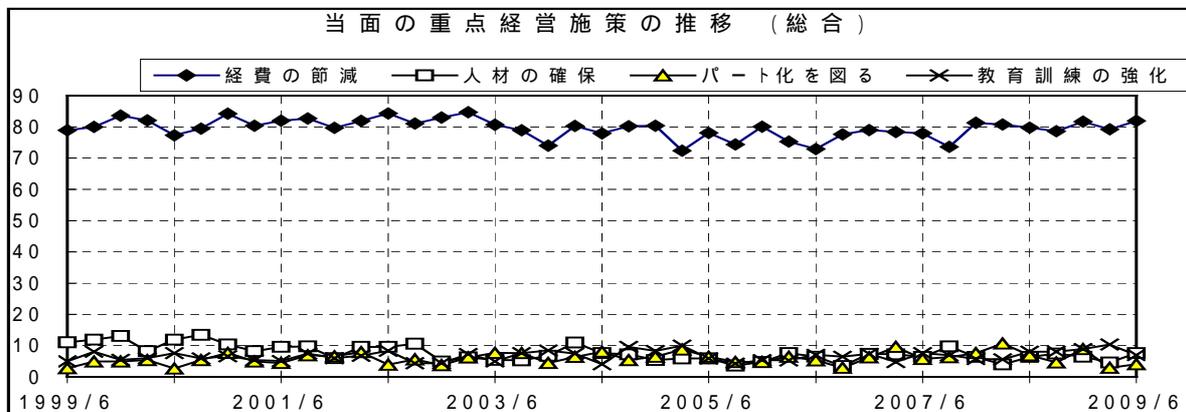
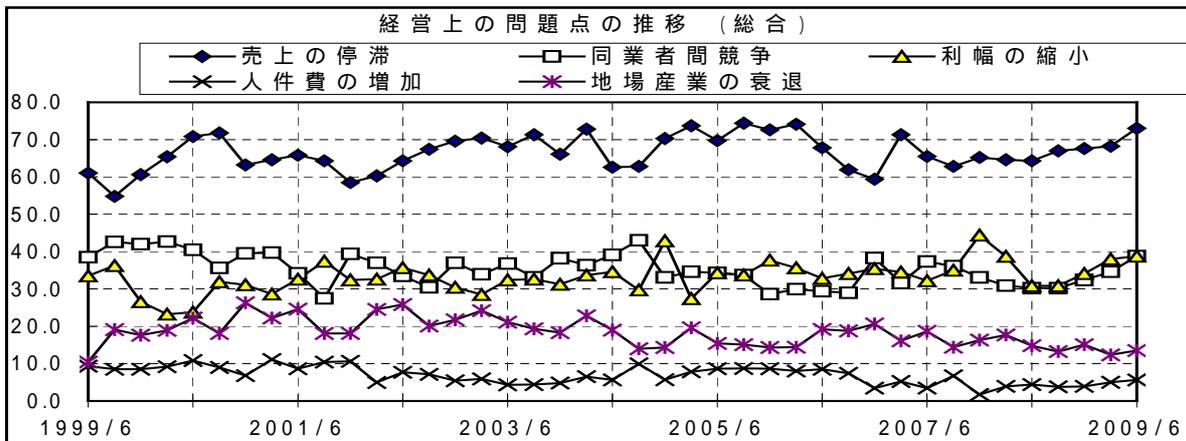
設備投資の充足感を示すDI値は 1.0 と、前期( 5.5)からマイナス値が縮小し4.5ポイント上昇、不足感が弱まる一方、適正と回答した企業は79.0%と、前期(81.1%)から2.1ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は14.9%と、前期(13.8%)比1.1ポイント上昇し、件数で前期の25社に対し27社の実施となった。また、来期予定では当期比3社減の24社となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」が73.0%で最も多く、次いで「利幅の縮小」、「同業者間の競争」38.8%、「地場産業の衰退」13.5%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」、「同業者間の競争」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、全業種で「売上の停滞」をトップに挙げ、浦河、静内、様似、えりも地区で70%を超える割合となっている。

重点経営施策では、「経費の節減」が81.9%で突出し全業種でトップに挙げている。地区別にみると、「経費の節減」が全地区で70%を超える割合を占め、静内地区が96.0%で最も高くなっている。



## 来期の見通し

来期(平成21年7~9月期)の予想業況判断DI値は 39.2 と、今期( 47.0)実績比7.8ポイントの改善を見通し、前年同期(平成20年7~9月期 46.1)実績を上回る水準となっている。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額が 12.7(今期 17.7)と、マイナス値が縮小し今期実績比5.0ポイントの上昇見通しにある一方、収益は 17.6(今期 14.9)と、マイナス値が拡大し今期実績比2.7ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断DI値は、販売価格が 17.6(今期 24.9)と、マイナス値が縮小し今期実績比7.3ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は1.7(今期2.8)と、プラス値が縮小し今期実績比1.1ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

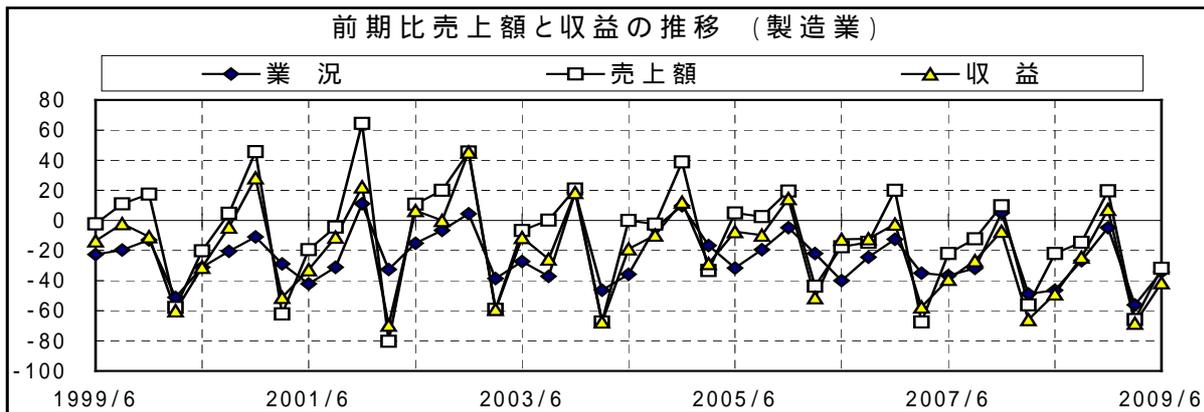
# 製造業 41 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

## 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-4.8	-56.1	-34.1	-22.0
売上額	19.6	-65.9	-31.8	4.8
収 益	7.3	-68.3	-41.5	9.7

今期の業況判断DI値は 34.1 と、前期比改善しマイナス値が 22.0 ポイント縮小、前年同期( 46.3)との比較でも改善を示した。地区別にみると、浦河、様似、えりも、広尾地区が改善し、静内地区が横ばい、三石地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 31.8、収益が 41.5 と、前期比それぞれマイナス値が縮小し 34.1、26.8 ポイント上昇した。

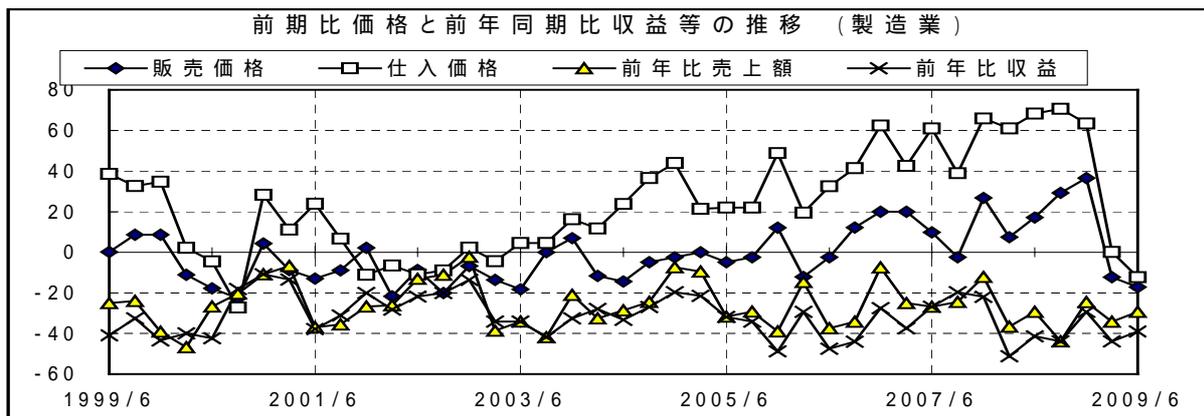


## 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	36.6	-12.2	-17.1	-12.2
仕入価格	63.4	0.1	-12.2	-4.8

販売価格判断DI値( 17.1)は、前期比マイナス値が拡大し 4.9 ポイント低下、仕入価格判断DI値( 12.2)は、前期比プラスからマイナス値に転じ 12.3 ポイント低下し、それぞれ価格低下基調を強めている。業種別にみると、食品が販売価格で横ばい、仕入価格で低下、

木材が販売、仕入価格ともに低下している。



## 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	0.1	-26.9	-19.6	0.0
人手状況	-14.6	9.8	22.0	14.6

残業時間判断DI値は 19.6 と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比 7.3 ポイント上昇した。人手過不足判断DI値は 22.0 と、前期比プラス値が拡大し 12.2 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

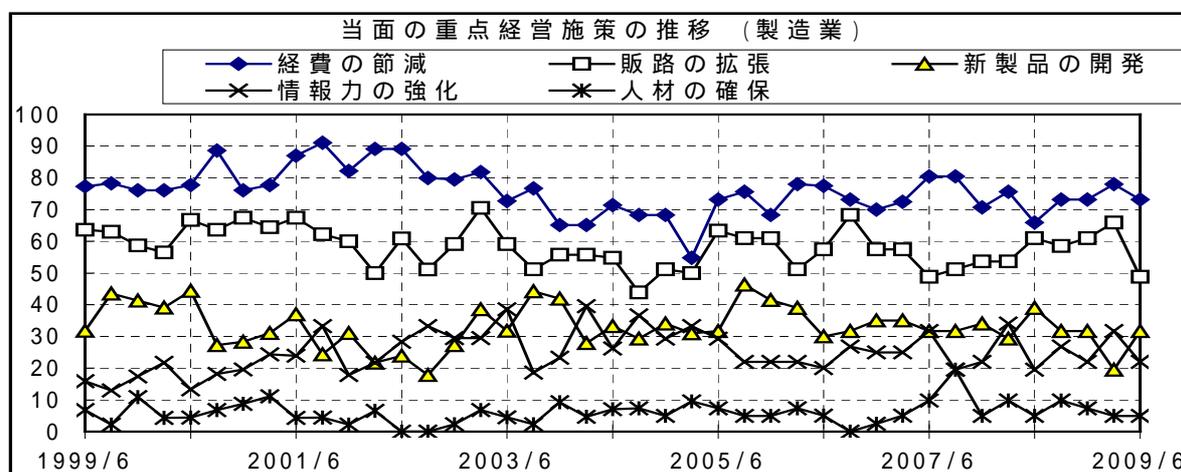
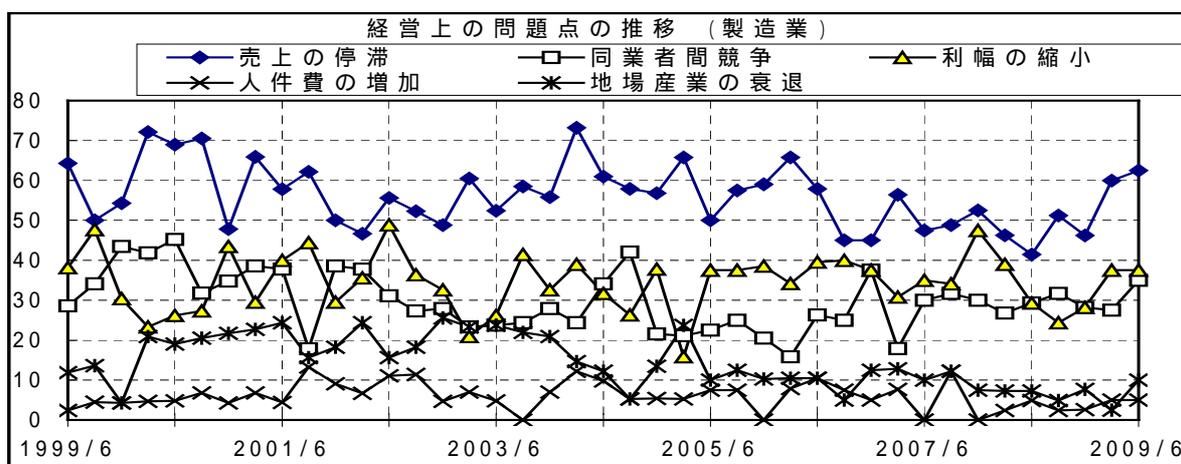
## 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すDI値は2.5と、前期(7.3)のマイナスからプラス値に転じ9.8ポイント上昇、過剰感が強まる一方、適正と回答した企業も87.9%と、前期(82.9%)から5.0ポイント上昇した。設備投資実施企業割合は17.1%と、前期(17.1%)比横ばい、件数で7社の実施となった。また、来期予定でも当期比横ばいの7社となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ62.5%、次いで「利幅の縮小」37.5%、「同業者間との競争」35.0%、「原材料高」25.0%の順に続き、前期との比較では「同業者間との競争」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、食品、木材ともに「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ73.2%、次いで「販路を広げる」48.8%、「新製品の開発」31.7%、「情報力の強化」22.0%の順となっている。業種別にみると、食品、木材ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



## 来期の見通し

来期(平成21年7~9月期)の予想業況判断DI値は22.0と、今期(34.1)実績比12.1ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額が4.8(今期31.8)、収益が9.7(今期41.5)と、それぞれマイナスからプラス値に転じ今期実績比36.6、51.2ポイントの上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断DI値は、販売価格が12.2(今期17.1)、仕入価格が4.8(今期12.2)と、それぞれマイナス値が縮小し今期実績比4.9、7.4ポイント上昇、価格低下基調が弱まる見通しとなっている。